

熊本県視覚障がい者福祉協会・団体（社会福祉事業）

平成 31（2019）年度 事業実績報告書

1. 同行援護従業者養成研修事業

今年度は、7月に一般課程（3日間）、8月に応用課程（2日間）を実施した。会場は熊本市障がい者福祉センター希望荘にて、また、熊本市交通局、イオン熊本中央店、JR水前寺駅のご協力をいただき、電車・バス・JRの乗降、エレベーターの乗降、買い物実習など実践的な実技練習を行うことができた。一般課程10名、応用課程7名の方が受講し、全員が無事に修了された。

2. 歩行訓練指導等事業

（1）歩行訓練回数 73回

（2）歩行訓練受講者数 23名

歩行訓練につながった経路は、眼科などからの紹介が約60%を超えており、これまでの歩行訓練士に対する周知活動の成果が表れてきており、少しずつ浸透している。

受講者の男女比は男性が10名（43%）、女性が13名（57%）である。平均年齢は約60歳で、60代以上が全体の6割を占めている。主な眼疾患別では網膜色素変性症の方が10名で半数近くを占めており、次いで緑内障が多い。受講者の居住地域は熊本市内が半数以上であるが、阿蘇・天草など遠方の受講希望者も増えてきている。そのため、視覚障害者の方は移動に不自由を感じるため、訓練士が自宅に訪問して訓練を受けることができるのは大変重要であり意義があることである。

（3）会議・研修会など

訓練士の専門的な知識や技術の習得などキャリアアップのため研修に参加した。日本歩行訓練士会および九州歩行訓練士会では歩行技術以外に視覚障害者誘導用ブロックや視覚補助具・支援者のメンタルケアなどの研修が行われた。また10月のフォローアップ研修では海外の歩行訓練士を講師に呼んだ研修が行われ、指導者としての技術・知識の向上を図れた。また、このような研修会への参加は身近に訓練士がいない中、技術習得や情報収集のためには必要だと実感した。

その他、医療・教育・福祉の各機関から研修会等の講師依頼を受けることが増え、社会への啓発に繋がっている。ボランティア養成講座や福祉施設職員研修などで視覚障害についての理解や手引きによる誘導方法、盲学校職員研修で指導・助言、眼科のドクターや視能訓練士向けに安全な移動方法や白杖の話など視覚障害理解の内容で依頼が増えてきた。また、歩行環境改善のために視覚

障害者誘導用ブロックの敷設などに関する相談や熊本駅前広場やサクラマチクマモトなどの意見交換会に出席し助言を行った。

視覚障がい者の方々が地域で安心して暮らせるようになるには、視覚障がい当事者本人を指導することはもちろんのこと、周りで支援してくれている方たちに「視覚障がい者への正しい接し方」を理解していただくことも同じように大事なことである。今後も視覚障がい理解や手引きによる誘導方法の研修の要望は増えていくと考える。

3. 団体連絡助成等事業（別紙報告書のとおり）